

花ちゃん、オー君、モンタ博士のわくわくドキドキ冒険記2

国立市立国立第七小学校

平成26年5月7日 NO.9 (109)

2年生 「ねえねえ、モンタ博士！この前、みんなで田んぼに行った時に、たくさんのカエルを見つけたんです。」

モンタ博士 「ほほー。それはよかったね。ハケ下の田んぼちかくには、水もあるから、それで、たくさんのカエルをつかまえることができたんだね。」

2年生 「カエルは、忍者（にんじゃ）みたいだったよ。」

モンタ博士 「ほほー。それはどうしてかな。」

2年生 「だって、入れものにぴったりとはりついてたんだ。やっぱり忍者だ。」

モンタ博士 「それは、たぶんニホンアマガエルだね。」

2年生 「へえー。本当（ほんとう）の名前はニホンアマガエルというんですか。ところで、モンタ博士、日本にはどのくらいのカエルがいるのですか。」

モンタ博士 「そうだね。40種類（しゅるい）くらいかな。アカガエル・アオガエル・アマガエル・それにヒキガエルの仲間（なかま）などがいるんだよ。でもね、ほとんどが沖縄（おきなわ）などの南のあたたかい所に多（おお）いのさ。」

2年生 「へえー。そうなんですか。カエルってそんなに種類多くないんですね。」

モンタ博士 「そうだね。でも、カエルについては、まだまだわからないことがたくさんあるそうなんだよ。葉っぱの上にちょこんとすわっているカエルがいたら、手にとる前に、じっくりと観察（かんさつ）してみようね。」

2年生 「ゆびの先にある吸盤（きゅうばん）でしっかりとくっついているんですね。」

モンタ博士 「そうだよ。それから、両方（りょうほう）の手でかごをつくるようにしてみると、にげるようにしてあばれるから、やっごらん。」

2年生 「へえー。そうなんですか。今度（こんど）やってみようっと。」

モンタ博士 「それから、カエルをおとなしくさせるには、手のひらにあおむけにねかせて、おなかを指でそっとなでてごらん。きっとおとなしくなるよ。やっごらん。おもしろいぞ。」

2年生 「へえー。そうなんですか。今度（こんど）やってみよっと。」

モンタ博士 「ところでね、緑（みどり）色のカエルたちといってもいろいろいるんだよ。」

2年生 「え？緑色のカエルって、アマガエルだけじゃないんですか。」

モンタ博士 「日本には、緑色のカエルとして、アマガエルのほかに、シュレーゲルアオガエルと、モリアオガエルなどがいるんだよ。そのちがいや観察（かんさつ）のポイントなどを下にくわしくかいておいたから、見るといいよ。」

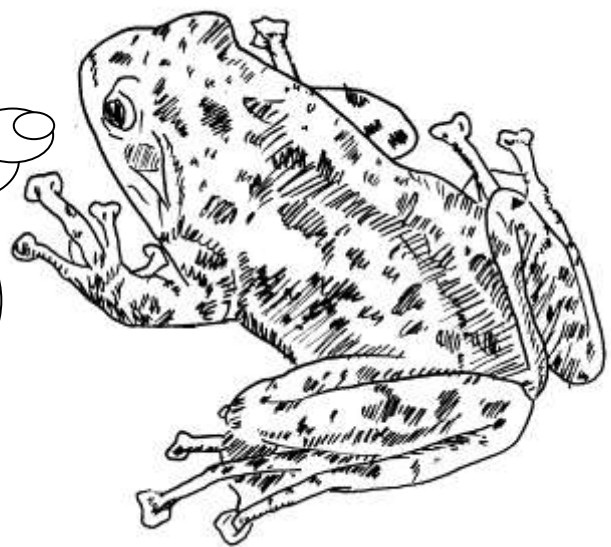
おいらは、シュレーゲルアオガエルなんだ。アマガエルとにているけど、目の近（ちか）くに黒い線（せん）はないよ。白いあわの中に、白いたまごをうむんだよ。



ぼくは、アマガエルさ。低（ひく）い木や草の上で生活しているんだ。浅（あさ）い水の中に、パラパラとたまごをうむんだよ。それから、目はだいたい色だよ。鼻（はな）から目にかけて黒い線があるんだ。



わしは、モリアオガエルさ。アマガエルやシュレーゲルアオガエルとくらべると少し大きいぜ。水辺（みずべ）にはりだした木の上にたまごをうむんだよ。モンタ博士のおうちの近くにはいるらしいよ。



注意・・・生き物をさわった後は、手をあらおう！

アマガエルやヒキガエルなどの皮膚（ひふ）には、有害（ゆうがい）な物質（ぶつしつ）が分泌（ぶんぴ）されます。カエルにさわった手で、目をこすったり、口をさわったりしないように注意（ちゅうい）しましょう。なお、カエルに限らず、いろいろな生き物にふれた後、観察（かんさつ）が終わったら、必ず手をあらいましょう。校長室前のイモリもさわってみてもいいですが、その後は、必ず手をあらいましょう。